平成21年11月27日

五　小　の　風　景 No. 8

五日市小学校長　　国政　直文

親子のきずな

少しかたい話になりますが，今回60年ぶりに改正された教育基本法に新設された項目があります。それは，「家庭教育」という項目です。親子のきずなの大切さをうたっています。法律に制定しないといけないほど，親子のきずなが危機的な状況になっているのかも知れません。そんなことを思うととても寂しい気持ちになってしまいます。

本校での6年生を対象とした生活アンケートにおいても，「家族で一緒に食事をしない」「学校のことなど家の人に話さない」という項目が全国と比べてとても低い結果でした。こうした状況を見ると，家族団らんという言葉も死語になりつつあるんだなと痛感します。

学校でも，子ども達の様子を見ていて少し気になることがあります。それは，時たま次のような子どもの姿を目にすることです。不機嫌な顔をして登校している子，うつむき加減で登校している子，朝からぼんやりと何か物思いにふけっている様子が見られる子，1時間目から授業に集中できず勉強とは関係ないことをしている子，友だちにちょっかいを出している子など。こういった子ども達の姿を見ると学校に来るまでに何かあったのかなとつい思ってしまいます。

子ども達の健全な育成には，学校と家庭との連携が必要です。多くの時間を過ごす学校での教育が果たす役割が大きいことは当然のことです。したがって，教員一人一人が自覚をもって日々子ども達への教育に取り組んでいますし，これからもしっかりと取り組んでいきます。同時に，家庭での協力は大きな支えとなります。

子どもは，親にまるごと自分を受け入れてほしい，自分を認めてほしい，自分のことをいつも見ていてほしいと思っています。だから，時には反抗したり，わざとわがままを言ったりという行動をとります。自分に注目してもらいたいために。どんなに厳しく叱られても，そう思います。子どもは，叱られれば叱られるほど，親を責めるのではなく，自分自身を責めます。「自分はだめな子だ」「自分がいなければ」「自分はいらない子なんだ」・・・と。

子ども達をこういう気持ちにさせないためにも，ぜひ親子での会話を増やし，親子のきずなを強めてほしいと思います。この親子のきずなを強めていただくことが，家庭での大きな協力となります。今日のような社会情勢の中では，なかなか家族団らんという時間をとることは難しくなっていると思います。家族団らんとはいかないまでも，ほんの少しの時間を活用して親子で触れ合ってほしいものです。

子どもは，親の話をよく聞き，覚えているものです。（聞いていないように見えても。）ですから，親の一言は大きいのです。プラスの言葉は多くてもいいのですが，マイナスの言葉が多いとそれがインプットされて，「自分はだめだ」という自己否定感を子どもに持たせてしまいます。この自己否定感が強くなると，子どもは，何事にも消極的になり，意欲がなくなり，周りの人間が信用できなくなるという傾向があります。そうしないためにも，できるだけ肯定的な言葉かけをし，否定的な言葉かけは極力しないほうがいいと思います。（言うは易し，行うは難しですが。）しかし，そういう努力をすることで，親業としての力が培われていくのではないでしょうか。写真の花は，皇帝ダリアという花です。珍しい花で，本校正門の下のお宅に咲いています。この花の花ことばは「真心」です。保護者の皆様におかれましては，「真心」をもって，多くの肯定的な言葉かけを子どもさんにたくさんして頂き，自己肯定感を持てるようにしていただければ有難いです。

最後に，高松市であった小中学生の俳句とエッセーの作品発表会での最優秀作品を紹介します。（小学校4年生の作品です）

仲間のみんなが「きたないから嫌だ」とトイレ当番を嫌がった。そこで，母親から教えられていた「他人の嫌がることを頑張るといいことがある」という話をすると，みんな参加してくれた。家でこの話をすると，母親は持って帰った漢字テストを見ながら，「ずっと80点でもいいよ」と言ってくれた。